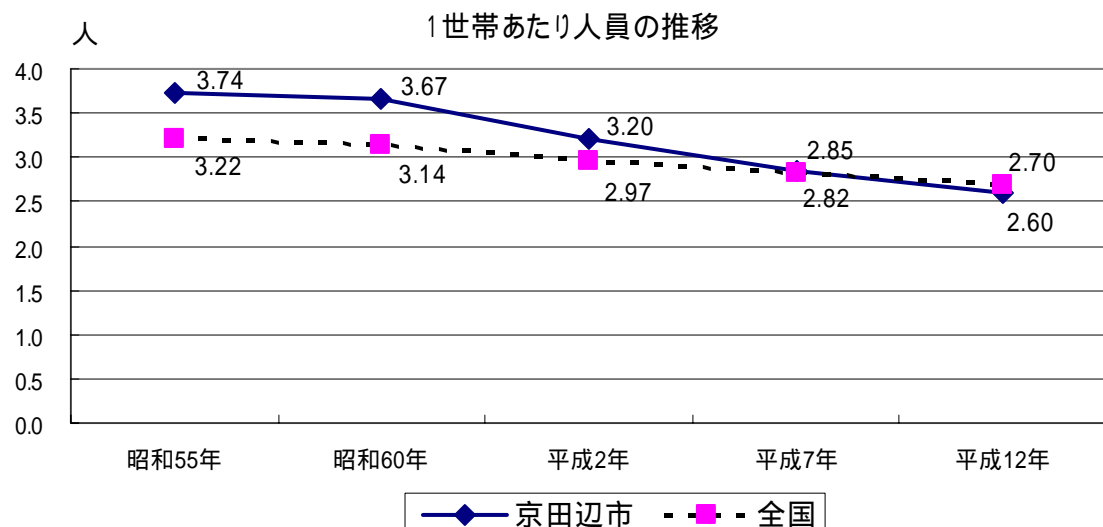
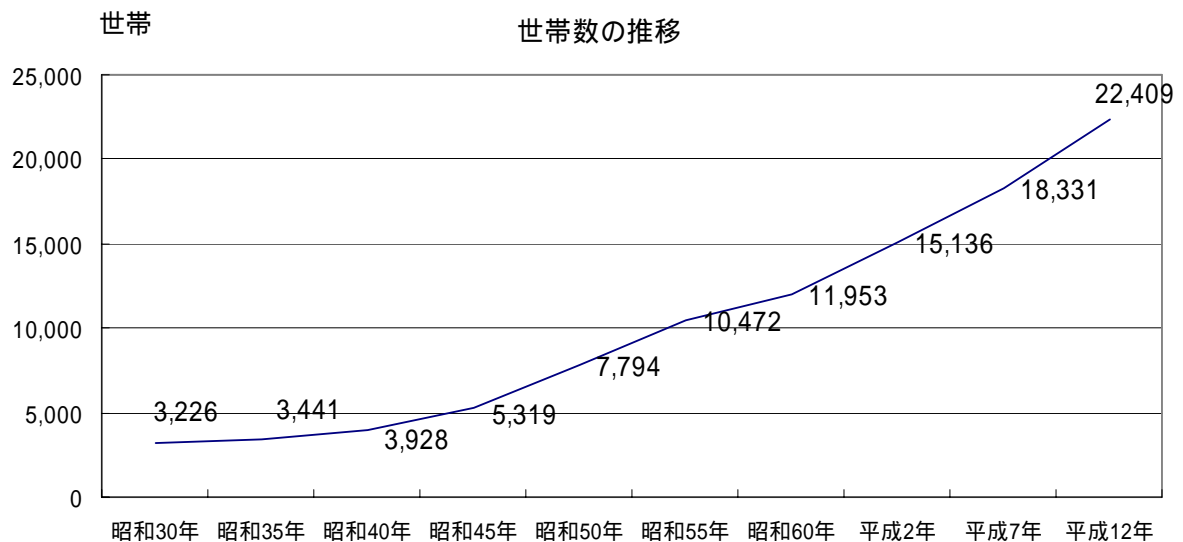


4 世帯の動向

(1) 世帯数と世帯人員

本市の世帯数は、昭和40年代前半までは微増傾向ですが、昭和45(1970)年以降は急激に増加し、昭和45年の5,319世帯から平成12(2000)年の22,409世帯へと約4.2倍となっています。

1世帯あたりの人員は、昭和55(1980)年においては3.74人で、全国平均の3.22人と比較して0.52人多い状況にありましたが、同志社大学・同女子大学の開校に伴う学生増加の影響により、昭和60(1985)年以降は著しく減少し、平成12(2000)年には全国平均2.70人に対して2.60人とほぼ同水準となっています。

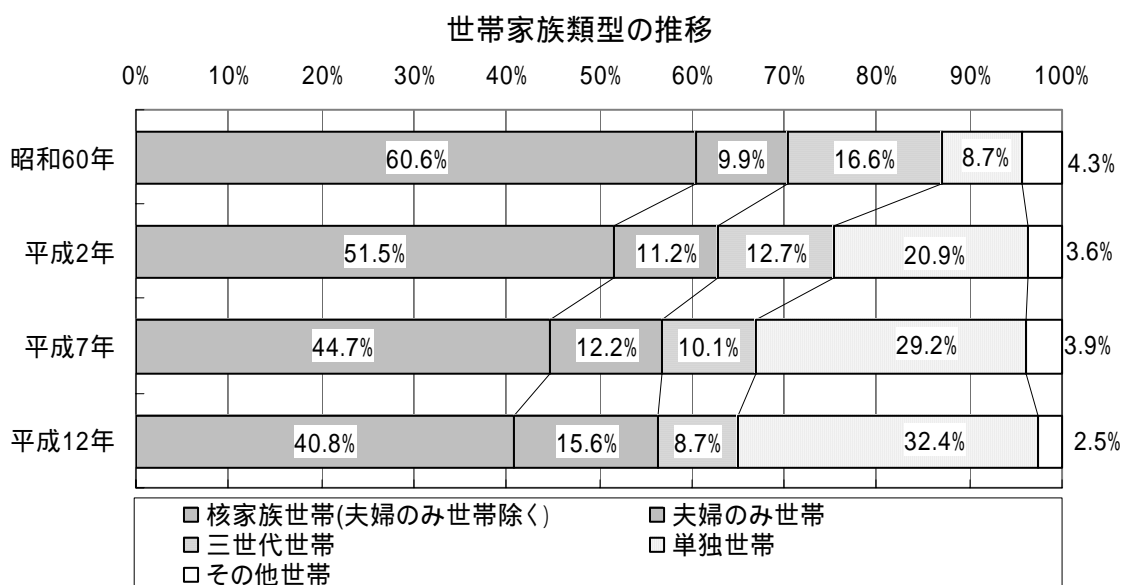


資料：国勢調査

(2) 世帯家族類型の推移

本市の世帯を家族類型で見ると、夫婦のみ世帯を除く核家族世帯の割合は昭和60(1985)年の60.6%から平成12(2000)年の40.8%と減少傾向を示し、三世帯世帯率も16.6%から8.7%へと減少しています。ただし、核家族数そのものは増加の一途をたどっており、平成12(2000)年には昭和60(1985)年の約1.3倍になっています。

一方、単独世帯は、昭和60(1985)年の8.7%から平成12年32.4%へと、おおおよそ3.7倍になっています。これは高齢者の単独世帯の増加だけでなく、学生数の増加と深く関わっていると考えられます。



資料：国勢調査

(3) 婚姻・離婚数の推移

婚姻数、離婚数の推移をみると、婚姻数は平成7(1995)年には487件ありましたが、近年は300件前後に落ち着きつつあります。離婚数は、平成4(1992)年には51件という低い年もありましたが、近年は90件前後で推移しています。

婚姻・離婚数の推移 (単位:件)

	婚姻数	離婚数
平成11年	306	79
平成12年	290	88
平成13年	306	98
平成14年	311	97

資料：各年人口動態統計